

と記し、本來回鶻部長、若しくは少くとも裴羅が、以前より之を統べたるものにして、此等の九姓を統一して、始めて可汗を稱するに至りしものに非ることは明かなり、果して然らば裴羅が可汗としての位置は回鶻部長として舊來統べたる此等の九姓、換言すれば回鶻部其のものと、外に拔悉蜜及び葛邏祿の一部分とによりて推戴せられたるものと曰はざる可らず、然れども新唐書葛邏祿傳には、此の際裴羅が可汗に推されし事情を記して、回鶻と葛邏祿との二部が拔悉蜜を討ち、其の可汗を走らすや、「葛祿與九姓復立回紇葉護、所謂懷仁可汗者也、於是葛祿之處烏德健山者、臣回紇、在金山・北庭者自立葉護」と曰へり、而して唐書にたゞ九姓として掲げらるゝものは、決して前記藥羅葛・胡咄葛等、本來回鶻部を構成せる九姓、而して其の一姓咽羅勿の外は余輩の知れる限り、此の以外に於て史乘に記載を有せざる微々たる勢力の九姓を指せるものには非ずして、却りて回鶻部をも其の一姓として含める鐵勒九姓の義に外ならざることは、次篇に於て論證せるが如し、かゝれば裴羅の可汗としての位置は、啻に從來統べたる藥羅葛以下の九姓部と拔悉蜜・葛邏祿の一部との上に認められたるには止らずして、實に少くとも鐵勒九姓部と、爾餘の二部との可汗として認めらるゝに至りたるものと見ざる可らず、此の如きは當時廣く北方諸部を従へたる突厥を破り、更に其の後に可汗を稱せし拔悉蜜を倒したる回鶻部長の勢としては、固とより當然の事情と認めべく、從て唐會要に

天寶初、廻紇葉護逸標苾、襲滅突厥小殺之孫烏蘇米施可汗、未幾自立爲九姓可汗、由是至今兼九姓之號、因而南徙居突厥舊地、依烏德健山崑昆河居焉……有十一都督、九姓部落一部落一都督、於本族中、選有人望者爲之、破拔悉蜜及葛邏祿、皆收一部落、各置都督一人、每行止戰鬪、以二客部爲〔軍〕鋒、其九姓一曰廻紇、二